

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	令和6年度実績	令和7年度計画	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>6. 教員・教員組織</p> <p>【計画33】（総務人事部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p>「計画達成のための方策」 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p>「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況</p> <p>【計画34】（企画部・教務部） 「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の明確化を図った上で、FD活動を積極的に推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p>	<p>Ⅳ 令和6年度の教員配置数は、247名（R7.3現在）、うち年度内の教員選考（採用）は、29名であった。欠員の補充は、内部昇格と外部採用を適切に組み合わせ、教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行った。</p> <p>Ⅲ 1. 授業評価については、昨年度より令和5年度アンケートの回収率は2.4ポイント上昇（72.7%）した。学部別の集計結果を令和5年9月に学内及び大学ホームページにおいて公表し、科目別の集計結果は、授業開講キャンパス事務部経由で科目担当教員に渡し、担当教員からは、次年度の授業計画の改善等を学科長等への提出を求めた。 ・学修及び学生生活に関する実態調査については、令和5年度実施分の集計結果を、一般向けに5月に大学ホームページで公開した。 また、令和6年度調査は、12月に実施し、昨年度より9.7ポイント高い79.6%の回収率となった。</p>	<p>【年度計画33】 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p>「評価指標」 ・教員の配置状況及び教員選考状況</p> <p>【年度計画34】 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p>	<p>Ⅳ ・令和7年度の教員配置数は213名（令和8年3月現在）であり、このうち年度内に実施した教員選考（採用）は7名であった。 ・教員に欠員等が生じた場合には、原則として公募により募集を行い、採用・昇任に当たっては、教員選考規程及び教員選考基準に基づき、教育研究業績、実務経験、大学運営への貢献等を総合的に審査し、公正かつ適切な選考を実施した。 ・また、看護学科においては、教育研究を円滑に実施するため、各学部・学科・領域における教育体制、実習運営、学生数等を踏まえ、領域ごとの適正人員の整理を進めるなど、教員の適正配置に注力した。あわせて、効率的かつ質の高い教育体制の維持・整備に取り組んだ。</p> <p>Ⅰ ・令和6年度の授業評価アンケートは、前期後期実施したものの、それらを集計して分析する部分が、最終的に行われなかった。集計、分析の担い手が不在となった反省から、令和7年度に実施した授業評価は、年度分をまとめて5月に結果分析を行った。 ・「学修及び生活に関する実態調査は、令和6年度より、全国学生調査に置き換わり、そちらを実施することで置き換えを行った。全国学生調査の結果分析は年度を超えてしまったが、令和8年5月に実施され、内部質保証会議にて承認、大学HPへに掲載に繋がった。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。</p> <p>「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p> <p>○各学部・学科・研究科等 【計画35-1】㊦(医療保健学部看護学科) 世界をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方を検討する。</p> <p>「計画達成のための方策」 年2回のFD研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。</p> <p>「評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年1回以上実施</p>	<p>IV 2. 令和6年度の「東京医療保健大学を語る会」については、10月23日（水）に対面、Zoom及び後日オンデマンド配信の形で実施した。当日は、まず理事長から講話の後、学長及び事務局長より、令和7年度に受審する大学基準協会認証評価に向けた本学の取組等について説明があった。当日及び後日オンデマンドの参加数の合計は100%であった。アンケート結果として、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が合計99.1%であり、参加者からの満足度は高い結果となった。</p> <p>I 本学科における必要な研究支援や体制整備について、令和5年度の意見交換内容をもとに、FD委員会で整理し課題の抽出と支援環境の整備を令和6年度の優先事項としていたため、対話討議は実施していない。支援体制について科研費説明会の時期の変更を要望し変更した。また、図書館や研究協力部に相談し支援可能な方法を検討できた。学内の支援体制や学科内での支援について春季FD報告会（3月18日）で教員間で共有した。科研費申請や研究計画作成、研究遂行に関する日頃の疑問に対する相談などのニーズがあり、令和7年度には科研費申請書の記載方法に関する相談会、研究遂行に関する相談会など学科内の人的資源を活用し開催する。それらを通して、各教員が先進的研究を推進できる力をつけることを目指す。</p>	<p>2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。</p> <p>「評価指標」 ・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部局毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p> <p>【年度計画35-1】 年2回のFD研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。</p> <p>「評価指標」 ・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況 年1回以上実施</p>	<p>III 2. 令和7年度の「東京医療保健大学を語る会」については、10月29日（水）に対面、Zoom及び後日オンデマンド配信の形で実施した。当日は、まず理事長から講話の後、株式会社Gakken 志村執行役員による講演、小野総合教育センター長からの活動報告について説明があった。当日及び後日オンデマンドでの参加数の合計は100%であった。アンケート結果として、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が合計99.5%であり、参加者からの満足度は高い結果となった。</p> <p>・認証評価結果として、「全学的な研修については、「全学FD・SD委員会」の主催により、年1回全教職員の参加を義務づけている「東京医療保健大学を語る会」を実施しているが、内容はFDに関するもののみであり、このほかにSD研修は実施していないため、教職員が大学運営に必要な知識・技能を身につけ、能力・資質を向上するためのSD研修を着実に実施することが求められる。」旨、改善課題として指摘されたことから、今後は総合教育センター及び全学FD・SD委員会において、教員に対する全学的なSDの実施について検討する必要がある。</p> <p>III ・教員のニーズに合わせた企画を実施することが今年度の計画であったため、4月にニーズ調査を実施した。その結果、16名の回答者から統計解析の相談、研究者同士の交流・情報交換、科研費申請に関するニーズを把握した。科研費申請については全学での研修を踏まえ、学科では少人数で「研究よろず相談会」を2回開催した。その結果、参加者5名中2名は、科研費申請につながった。アンケート結果から研究構想の相談や申請のための準備が具体的にわかり、次年度につながる企画であったと評価している。また、FD活動報告会（3/17開催）において、研究成果を共有した。</p> <p>・科研費の新規申請は14名（29.2%）、新規採択1名（7.1%）、前年度からの継続とあわせて科研費獲得8名であり、科研費の申請者は増加したものの採択者数の増加はなかった。今後も、相互支援の企画を継続し、評価していく。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会 内部質保証推進会議
<p>【計画35-2】㊦(医療保健学部看護学科) 教員が国際学会での発表や英文誌に論文投稿できるよう、教員に英語学習機会を提供する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. FD委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆を支えていく。 2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。</p> <p>「評価指標」 ・教員全員が5年のうち1回は英語研修に参加 ・教員全員が5年の間に1回は、国際学会(学術集会)に参加</p> <p>【計画35-3】㊦(東が丘看護学部・看護学研究科) 全学的FD委員会との調整の上、FD、SD活動を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. FDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。</p>	III	<p>1. 国際学会での発表や英文誌に論文投稿できるための支援として、令和5年度の意見交換内容をもとにFD委員会で整理し課題の抽出と支援環境の整備を令和6年度の優先事項としていたため、英語研修会は開催していない。国際学会参加者数も増えており、英語論文執筆している教員もいるため、支援の必要な教員を対象に、教員間のピアサポートや交流会などの開催など教員のニーズに合わせて達成のための方策を見直す。 2. 令和6年度は英語自主学習会を1回/週程度実施しており、継続して開催し達成できている。</p> <p>参加状況(令和6年度末時点) 回答者43名(回答率81%) ・5年のうち英語研修会に1回参加した教員は18人(41.8%) ・5年のうちに国際学会に1回は参加した教員は25人(58.1%) 学科としての支援は実施していないが、国際学会参加者数は増えており、国際学会へ参加や英語論文執筆への支援については対象者やニーズに合わせて方略を検討する。</p>	<p>【年度計画35-2】 1. FD委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆を支えていく。 2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。</p> <p>「評価指標」 ・教員全員が5年のうち1回は英語研修に参加 ・教員全員が5年の間に1回は、国際学会(学術集会)に参加</p> <p>【年度計画35-3】 1. FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 5. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 6. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したFDマップの運営方法検討。</p>	III	<p>・対象者のニーズに合わせて国際学会での発表や英文誌に論文投稿を目指している教員を対象に「国際学会参加・国際ジャーナル投稿に向けた交流会」を開催した(参加者10名)。国際ジャーナルアクセプト経験者2名の体験をもとに論文作成に向けて情報交換を実施した。参加者の反応としては、今後の参考となった、チャレンジしていきたい等の声が聞かれた。また、このような交流会を継続できることで研究を推進していくことにつながるなどの意見もあった。希望者による研究の交流やteamsでの交流等による情報交換、相互支援の場づくりを継続する。</p> <p>・英語研修の参加状況(回答率81.2%)は、5年のうち1回以上国際学会に参加した教員は19名(48.7%)と、国際学会参加者は1名増加した。英語研修会の開催の必要性についてアンケート調査を行ったところ、「開催を希望しない」という回答が74%だった。その理由として、「教員間での能力に差があり、集団としての開催では個々のニーズを満たせない」や「学会等の外部資源の活用が可能であるため」等だった。そのため、学科教員の当該企画のニーズは低いことを受け、今年度は英語研修会は実施しなかった。次年度以降も開催しないことにした。次年度以降の駅核から英語研修会、自主学習会の開催を削除し、相互支援FDの開催のみとする。評価指標から「5年のうち英語研修に参加」も削除する。</p> <p>III 1. FD・SDマップに則したFD研修の実施 FD・SDマップに基づき、教員の段階および役割に応じたFD研修を計画的に企画実施した。研修内容は教育力向上、研究指導力の強化、学生支援体制の充実を柱とし、体系的を担保した運営を行った。研修は学部内講師による研究2回、臨時研修2回、他キャンパス講師による研修1回、合計5回を実施した。参加率は概ね良好であり、当日参加できない者に対しては動画視聴できるように配慮した。事後アンケートでは「教育実践への活用可能性が高い」との回答が多数を占めた。FDマップに基づく研修体系が一定程度機能していることが確認された。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 SDの目的および意義についてFDマップブックに記載されているように共有を図るとともに、従来、教員中心であった研修体制に対し、研修開催時には全教職員にアナウンスし、大学運営への参画意識の向上を目指した。一方で、SD概念の浸透度には個人差が認められ、今後は継続的な情報発信と体系的な研修設計が課題。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
	<p>・FDマップに則した教職員に対し、社会的関心の高まりやホットイシューに関するテーマのFD研修を5回/年企画し、対面およびzoom開催としたことで、出席率や受講者の満足度も高く、研修目標の達成にもつながった。</p> <p>・全学との連携研修や他委員会で開催された研修との連携、学外で行われた新人教員向けの研修への参加案内、及びFDマップの利活用を促した。</p> <p>・FDマップの利活用を目指し、今年度よりFDマップの電子化に取り組んだ。電子化したFDマップに対してポジティブな反応もあったが、一方で、活用できていない教職員もいるため、アンケート結果に基づいて次年度において電子化したFDマップの運営方法を検討する予定である。</p>		<p>3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 地域機関との共催によるSD活動としては、日本看護系大学協議会『看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーの評価方法』の研修に教職員全員参加とし、学外の知見を取り入れる機会を創出した。参加者からは「モデル・コア・カリキュラムにおけるコンピテンシーの理解を再認識した」、「セミナーを通じ、具体的な評価スキルを学び続ける姿勢が求められる」、のように一定の成果が確認された。今後は外部大学や地域との共催による連携の継続性と具体的成果への発展が課題。</p> <p>4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 社会的関心の高いテーマや教育・医療分野におけるホットイシューを取り上げた研修会を開催した。時宜を得たテーマ設定により関心度は高く、参加者からは現場実践への示唆が得られたとの評価があった。本取り組みは、組織の社会的感度を高める機会として有効であったと評価できる。今後はテーマ選定のプロセスをより体系化し、継続的な実施体制の整備が求められる。</p> <p>5. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 FD・SDマップの周知状況および利活用実態を把握するため、東が丘教職員を対象としたアンケート調査を3月に実施した。その結果、研修終了後に継続的に実施してきたアナウンスにより、マップの存在および目的は概ね理解されていることが確認された。また、電子化による閲覧・記録の利便性向上が、教職員の自己管理および主体的な活用促進につながり、定着が進んでいる傾向が明らかとなった。本調査は、次年度の改善方を検討するための重要な基礎資料として位置付けられる。</p> <p>6. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したFDマップの運営方法検討。 FD・SDマップの周知および利活用状況に関するアンケート調査を実施した結果、マップの活用は概ね良好であり、教職員が自己のキャリア形成や研修参加計画に活用している実態が確認された。特に、各研修終了後にFD・SDマップとの関連を明示し継続的にアナウンスを行ったことが、利活用促進および自己管理意識の向上につながったと考えられる。また、学部主催の研修にとどまらず、全学的に実施されている研修についても積極的に情報共有を行い、教職員が教育・研究・地域貢献の各領域において計画的に研鑽を積むことができる環境整備を行った。その結果、FD・SD活動が個人の能力開発のみならず、組織目標の達成にも資する仕組みとして機能していることが確認された。アンケート結果を踏まえ、次年度に向けては、利活用事例の可視化および成果共有をさらに推進し、FD・SDマップの運営をより戦略的に展開する方針である。アンケート結果は教育69.8%、研究61.2%、社会貢献55%であった。</p> <p>【統括】FD・SDマップに基づき、体系的かつ計画的にFD・SD活動を推進した。研修後の継続的な周知および電子化による利活用促進により、教職員の自己管理意識の向上と主体的な研鑽が定着しつつある。また、学部内にとどまらず全学の研修への参加を支援することで、教育・研究・地域貢献の各領域における達成度向上に寄与した。アンケート結果を踏まえ、次年度に向けた改善の方向性も明確化され、FD・SD活動は組織的能力開発の基盤として機能していると評価できる。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDマップに則した職員のFD研修の実施状況 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進状況 ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動状況 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催状況 <p>【計画35-4】㊦(立川看護学部) 立川看護学部として、教員のFD企画、競争的研究費獲得に向けた支援の実施等及び立川市への公開講座の実施等により地域連携を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他学部のFD企画にも積極的に参加できるように調整し、情報提供を行う。 2. 学外講師に依頼ができるように、FDに関する予算（5万/年）を捻出する。 3. 東が丘看護学部 FDマップを参考に、FDの企画・運営を行う。 4. 公開講座の時期と内容等について立川市と検討する。 5. リサーチマップ登録・更新方法のガイドを紹介する。 6. リサーチマップの登録のメリットと方法に関するFDを開催する。 	IV	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部単独のFD企画として、対面で4回実施した。内容は、教学マネジメントに関する授業評価に関する内容を段階的に実施し、教員間で意見交換を活発に行った。 2. 他学部と共同のFD企画は今年度開催できなかったが、外部で実施されているFD企画への参加推進や災害医療センターで実施されている研修会などに参加するように広報を行った。 3. 学外講師によるFD企画は学部単独では実施できていないが、大学全体で実施される外部講師によるFD企画への参加推進をはかった。 4. 市民公開講座として「脳を活性化して生涯健康な脳を維持しよう！」というテーマで11月に1回、親子を対象として「アロマでせっけんづくり」を8月に1回実施した。 5. 5月上旬に2023年度年報がUPされ、2024年度年報を作成している。 6. 8月に大学HP上に「令和5年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 	<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施 4～6回/年 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進(全学との連携研修開催 2回程度/年) ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動 4～6回/年 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催1～2回/年 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営方法検討状況 <p>【年度計画35-4】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部単独のFD企画。年間3回（Zoom 2回、対面 1回） 2. 他学部と共同のFD企画。年間3回（Zoom 2回） 3. 学外講師によるFD企画。年間2回（Zoom 1回、対面 1回） 4. 立川市民への公開講座。年間2回（対面 2回） 5. 立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開。 6. 自己点検・評価報告書（立川）の作成。 	IV	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部単独のFD企画については、対面もしくはハイブリット型で計5回実施した。 2. 他学部と共同のFD企画は今年度開催できなかったが、外部で実施されているFD企画への参加推進や災害医療センターで実施されている研修会などに参加するように広報を行った。 3. 学外講師によるFD企画は学部単独では実施できていないが、大学全体で実施される外部講師によるFD企画への参加推進をはかった。 4. 市民公開講座として、「CCAP版親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム ダイジェスト版」というテーマで11月に実施した。3月に「アロマでせっけんづくり」を企画していたが、参加者がなく中止となった。 5. 令和5年度(2024年度)の年報がUPされており、2025年度年報を作成している。 6. 自己点検報告書については、前年度のものを提出され、UPされている。 		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	<p>7. 毎年度競争的研究費の受託件数を把握する。</p> <p>8. 科研費申請に向けたFDを企画し、毎年度内容を改善していく。</p> <p>9. 毎年2月ごろ次年度の「住民を対象とした活動」について各領域や委員会に活動を促すとともに、次年度の予定を確認する。</p> <p>「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況</p> <p>【計画35-5】（千葉看護学部） DPを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のFD活動を積極的に推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 教育経験の浅い教員を対象とした大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。</p> <p>「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況</p>	IV	<p>7. resarchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画が引き続き提供されている。科研費11件、学外助成金は5件、学内助成金は4件であり、前年度より多少増えている。</p> <p>8. 「まちの保健室」の実施が難しく、地域と連携した企画が滞っているが、立川市と共同している公開講座等を通じて住民の健康増進に寄与していきたい。</p> <p>9. 今年度の発表状況（学会発表 56回、論文 24編）は、昨年度（学会発表 62回、論文 22編）と比較して、学会発表が少し減少しているようであったがほぼ横ばいの状況である。</p>	<p>7. 立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。</p> <p>8. 地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。</p> <p>9. 教員の学会発表または論文投稿（いずれも共著含む）を推進する。</p> <p>「評価指標」 ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書（立川）の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況</p> <p>【年度計画35-5】 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 若手教員を対象とした基礎的FD研修会を開催する。（対象がある場合）（年1回）</p> <p>「評価指標」 ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況</p>	III	<p>7. Resarchmapについては、全員の教員が登録をすることができている。科研費10件、学外助成金2件であった。</p> <p>8. 災害看護に関連し、地域と連携して防災対策等を通じて住民の健康増進に寄与している。</p> <p>9. 今年度の発表状況は学会発表件数38回、論文17件であった。昨年度が学会発表 56回、論文 24編であったため、減少しているが、教員数も減少していることも影響している。今後さらに推進していく。</p>		
	IV	<p>1. 令和6年度の基礎的FDの対象となった3名の教員の進捗管理・支援を行い、基礎的FD研修会および助教・助手教員交流会を1回実施した（3月11日）。令和6年度は、少人数でのグループワークを実施し、焦点を絞ったディスカッションを行うことができた。</p>	<p>1. 令和6年度の基礎的FDの対象となった3名の教員の進捗管理・支援を継続し、基礎的FD研修会および助教・助手教員交流会を1回実施した（3月11日）。DXの利活用に関する授業参観の報告があり、シミュレーション教育についての小人数でのグループワークを実施し、ディスカッションを行うことができた。</p>	IV				

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>2. 学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をすることを意図したFD研修を行い、教育・研究能力向上に向けた相互の学びを深めるとともに、大学・学部のDP達成に向けての課題検討の基盤を構築する。</p> <p>「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況</p> <p>3. テーマに基づくFD研修会開催。 過去のFD研修の評価や、時々のトピックスを反映させた講演・グループディスカッションによるFD研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況</p> <p>【計画35-6】(和歌山看護学部) 教員の資質及びDP実現に向けた教育力向上を目指して教員のFD活動を積極的に推進する。</p> <p>「水準達成のための方策」 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とDPの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。</p>	IV	<p>2. 3月13日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。令和6年度は、紙上報告を取り入れ、効率的な運営に取り組んだ。</p> <p>「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況</p> <p>3. 8月27日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「コンピテンシー基盤型教育(CBE)の考え方で本学部の実習科目を理解する」というテーマで、また、教務委員会との共催で、「新しい統合実習について」といテーマでFD研修を行った。 ・3月13日には、カリキュラムプロジェクトとの共催で、春季FD研修を行った。 ・そのほかに、10月15日に学生生活支援委員会との共催で、臨地実習における合理的配慮・教育上の調整が必要な学生の理解と支援について、10月18日に教務委員会との共催で、「2025年度以降の統合実習案について」、11月19日に実習委員会との共催で、「教員の実習指導力向上を目指すワーク」、などの共同FD企画を実施した。</p>	<p>2. 学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体FD研修会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ・学部全体での情報共有の会開催状況</p> <p>3. テーマに基づくFD研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解決に関連したテーマに基づく全体FD研修会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ・テーマに基づくFD研修会開催状況</p> <p>【年度計画35-6】 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。(対象に応じて開催回数を調整) ①教育経験の浅い教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年2回) ②新採用教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年1回)</p>	IV	<p>2. 3月12日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有した。教育活動では、領域ごとのトピックスの報告があり、次年度に向けての情報共有が深まった。</p> <p>3. 8月26日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「10年後の保健医療を見据えた人材育成のビジョンから見た現在の実習の課題と未来の構想」というテーマでFD研修を行った。 ・3月12日の春季FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「新カリキュラムの2028年度開始に向けて、課題を明確化し、共通理解する—2027年5月申請を目指して—」、FD担当として「科学研究費助成事業(科研費)の適正な管理等について」「今、改めて“標準化”とは」というテーマで春季FD研修を行った。 ・そのほかに、11月18日に学生生活支援委員会との共催で、学生のキャリア形成の支援について、12月12日に老年・在宅看護学領域との共催で、「リアルワールドデータ(RWD)の活用看護資源の適正な配置を目指して」などの共同FD企画を実施した。</p>		
<p>1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とDPの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。</p>	III	<p>1. 新採用教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、令和6年度にオンデマンド(令和4年度実施のものを活用)を実施した。 ①教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「科研費を取ろう」(研究協力部主催)として実施した後日、数名の教員は個別の研究相談を受けた。 ②研究費獲得のためのFDを1回、新任教員への説明会を1回実施した。</p>	<p>1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。(対象に応じて開催回数を調整) ①教育経験の浅い教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年2回) ②新採用教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年1回)</p>	III	<p>1. 新採用教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、令和7年度にオンデマンド(令和4年度実施のものを活用)を実施した。 ①新任教員および教育経験の浅い教員を対象とした研修については、令和8年度に向けて体系的な研修計画を作成し、実施に向けた準備を進めた。本年度中の実施には至らなかったが、継続的なFD推進の基盤整備を行うことができた。 ②教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「科研費」(研究協力部主催)(1回)として実施した。また、総務人事部主催「メンタルヘルス研修」(1回)や研究協力部主催「研究倫理研修」(1回)、他学部主催のFSD研修会へ参加した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>「評価指標」 ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況</p> <p>2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。</p> <p>「評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況</p> <p>3. 教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。</p> <p>「評価指標」 ・FDの実施状況</p>	II	<p>2. FDとして実施できなかったが、領域長の会合において実習指導について、学生の受講態度について、教育への学年上の学生の参加（SA）についてなどの意見交換を行い、教育に反映した。 ・教学マネジメントについての研修を専門家を招いて実施し、38名が参加し、理解を深めた。 ・「ハラスメント研修」を昨年度からシリーズとして継続し、本年度最終ということで具体的な事例をもとに教員間のディスカッションも含めて実施した。対面で開催 35名（教員 330、職員 5名）で参加があり、好評を得た。 ・意見交換会を4回、教学マネジメント研修を1回実施した。</p> <p>3. 研究協力部主催「令和6年度科学研究費助成事業説明会」へ参加した。科研費獲得経験者に個別相談できることを教員に伝え、教員が相談を行った。 ・「ルーブリック研修会」、「和歌山看護学部の教育理念・目的に向かって」を実施した。 ・他学部FD「ルーブリック研修会」（医療栄養学科）、「ダイバーシティマネジメント」（医療保健学部看護学科）、「学長と語る会」（全学FDSD委員会）に参加した。</p>	<p>「評価指標」 ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況</p> <p>2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。テーマを決めて実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。（上記合わせて年1回）</p> <p>「評価指標」 ・意見交換会・情報共有会の実施状況</p> <p>3. 教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。</p> <p>「評価指標」 ・FDの実施状況</p>		<p>2. 教員および大学院生等を対象として、令和7年5月30日に、看護実践研究センター・全学FDとの共催により、舟島先生による研修会「これからの看護学教育、研究、実践に求めるもの」を実施した。参加者は132名であり、教育・研究・実践を接続して捉える視点を共有し、教員の資質向上に資する機会となった。 また、令和7年10月28日（火）17:00～18:00に、東京医療保健大学千葉看護学研究科・和歌山看護学研究科合同FD・SD研修会をZoomにて実施した。テーマは「実践・教育・研究における課題開発と取り組みの実際」であり、教職員、大学院生、修了生、実習施設看護職者が参加し、Zoom参加65名、動画視聴14名、計79名であった。これにより、教育・研究・実践に関する取組や課題を共有し、相互に学びを深める機会となった。</p> <p>3. 教育・研究能力の向上を図るFDとして、研究協力部主催「令和7年度科学研究費助成事業説明会」へ参加した。科研費獲得経験者に個別相談できる機会について教員へ周知し、研究費獲得に向けた支援につなげた。 他学部FDである「米国のDNP教育から学ぶこと」（医療保健学研究科）、「参加型実習導入にむけた勉強会2-国内動向と本学科における導入・発展を見据えて-」（医療保健学部看護学科）、「学長と語る会」（全学FDSD委員会）に参加し、教育・研究能力の向上に努めた。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画35-7】㊦(大学院医療保健学研究科) 教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・研修会に参加できる調整を行う。職位に関わらず、一人年2回の学術集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。</p> <p>「計画達成のための方策」 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年2回</p> <p>【計画35-8】㊦(大学院千葉看護学研究科) 大学院における教職員の教育力の開発推進。</p> <p>「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況</p>	III	<p>1. 各領域における3Pを再検討し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院の各領域別に検討後、全体で集約検討している。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入は、社会人対象となっているため現状の中では導入に至る取り組みはしていない。 3. 国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表できるように取り組んでいるが至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできてきているが、今後は国際学会への参加や発表まで至ること、また、投稿に繋がってきているが論文審査を受けて合格した論文は前例投稿できるように推進していきたい。 4. 産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。 ・学術集会参加 一人年2回 学会はほぼ全員が参加に繋がっている。</p>	<p>【年度計画35-7】 研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。 1. 体系的なカリキュラムの構築。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入。 3. 国際会議発表の推進。 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。 「評価指標」 ・学術集会参加 一人年2回</p> <p>【年度計画35-8】 大学院担当教員/職員を対象とした情報交換/研修会を、年2回開催する。 うち1回は他研究科との合同研修とする。 主たるテーマは、教育実践の評価から見いだされた地域貢献とその発展とする。</p> <p>「評価指標」 ・大学院における教職員の教育力の開発状況</p>	III	<p>1. 各領域における3Pを再検討し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院の各領域別に検討後、全体で集約検討している。 2. 学部・大学院の一貫教育の導入は、社会人対象となっているため現状の中では導入に至る取り組みはしていない。 3. 教員は職位に関わらず一人年2回の学会参加ができており、数名の教員は国際会議での発表を行った。大学院での人材育成として、大学院生の中から国際会議で発表できるように指導に取り組み、発表に至った者が1名いた。国内発表は各領域でほとんどの大学院生が年2回程度できており、今後は国際学会への発表に至ることができるように推進していきたい。 4. 産学連携・地域連携による共同研究は、各領域で1～2テーマ程度は進めてきているが、さらに推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。 ・学術集会参加：一人年2回 学会はほぼ全員が参加に繋がっている。</p> <p>・和歌山看護学研究科と共同し、大学院担当教員/職員および大学院学生等を対象としたFD・SD研修「実践・教育・研究における課題開発と取り組みの実際」を、10月28日（木）に実施した。千葉看護学研究科からの参加者は教員24名、事務職員2名であり、事後アンケートからは、「地域包括ケアに関する看護師の役割を見出す過程を具体的理解できた」などの感想があり、実践・教育・研究についての学びが得られたことが示された。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画35-9】㊦(大学院和歌山看護学研究科) 研究科を担当する教員の教育・研究指導能力の向上を図り、学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 大学院における教育・研究能力開発のためのFD研修を実施し、その向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況</p> <p>2. DPを実現するための学部専門領域を横断的にした研究領域の編成を継続する。</p> <p>「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況</p> <p>3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。</p> <p>「評価指標」 研究発表・投稿状況</p>	IV	<p>1. 大学院生および教員に対して、千葉看護学部との共同研修会を実施した。発表者の千葉看護学部の伊藤真理講師によるKJ法における研究法、和歌山看護学部の土井一浩教授による実験研究における研究法と幅広い研究方法について発表された。統計学についての外部講師（三重大学谷村普教授）の招へい講義の3回シリーズを、12月～1月に実施した。参加者は大学院生および教員、延べ人数103名だった。講義後のアンケートでは、「検定方法や解析手法を選択するための考え方など理解できた」「自己学習や研修などの参加を重ねていく必要性を認識した」など継続的な学習への意欲の向上にもつながっていた。研修内容の理解度についても90%以上の参加者が理解できたという反応だった。</p> <p>2. 3分野に各専門領域の教員の配置をバランスよく行った。</p> <p>3. 教員は学部との兼務であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼任教員の研究成果は、概算であるが、論文掲載15件、著書4件、学会発表35件であった。</p>	<p>【年度計画35-9】 1. 大学院担当教員を対象とした研修会を、年2回開催する。うち1回は他研究科との合同研修とする。</p> <p>「評価指標」 ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況</p> <p>2. 教員の異動時に、研究領域の担当教員が学部の多様な専門領域で編成するよう配慮する。</p> <p>「評価指標」 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況</p> <p>3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。</p> <p>「評価指標」 研究発表・投稿状況</p>	IV	<p>1. 教員および大学院生に対して、2025年5月30日に、看護実践研究センター・全学FDとの共催により、舟島先生研修会「これからの看護学教育、研究、実践に求めるもの」を実施した。参加者は132名であり、教育・研究・実践をつなぐ視点について学ぶ機会となり、教員の資質向上および大学院教育の充実に資する研修となった。 また、2025年10月28日（木）17:00～18:00に、東京医療保健大学千葉看護学研究科・和歌山看護学研究科合同FD・SD研修会をZoomにて実施した。実践・教育・研究における課題開発と取組の実際をテーマに、教職員、大学院生、修了生、実習施設看護職者が参加し、相互に学びを深める機会となった。</p> <p>2. 3分野に各専門領域の教員をバランスよく配置した。</p> <p>3. 大学院教員は学部教員が兼任している。研究成果は、概算であるが、論文掲載21件、著書10件、学会発表32件であった。</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画35-10】㊦(助産学専攻科) 教員としての自己研鑽を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p>「評価指標」 ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p> <p>【計画35-11】㊦(和歌山助産学専攻科) 助産学を教授する教員の能力向上に務める。</p> <p>「計画達成のための方策」 全国助産師教育協議会への参加、地方部会での役割遂行を通して、助産学を教授する教員の能力向上に務める。</p> <p>「評価指標」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 年2回のFD研修に参加している。 2. 全国助産師教育協議会への出席（2名）と教育講演・厚生労働省技官からの講演を聴講し現在の助産学教育の現状と課題を学習した。 3. 4. 全助教で企画している全国研修前の評価者研修に教員4名が参加している。 5. チーム医療研修への教員が3名参加して自己研鑽している。 ・産婦人科医師による裂傷縫合の演習を施設の助産師、医師及び本学学生20名が演習を通して学んだ。</p> <p>IV</p> <p>・全国助産師教育協議会への出席（2名）と教育講演・厚生労働省技官からの講演を聴講し現在の助産学教育の現状と課題について学習した。和歌山母性衛生学会には学生9名教員3名とともに出席した。それぞれの教員の専門とする分野での学習・調査を実施し授業へのフィードバックを行った。新生児救命救急インストラクターのブラッシュアップ研修、不妊カウンセラーの研修やライセンス取得への努力した。</p>	<p>【年度計画35-10】 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p>「評価指標」 ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p> <p>【年度計画35-11】 全国助産師教育協議会主催総会・研修会等に1名が1回以上の参加と専攻科内の情報共有を行う。</p> <p>「評価指標」 ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 年2回のFD研修に参加している。 2. 全国助産師教育協議会への出席（2名）と教育講演・厚生労働省技官からの講演を聴講し、現在の助産学教育の現状と課題を学修した。 3. 4. 全助教で企画しているOCSE評価者研修およびOCSE評価に教員2名が参加している。CBTは令和7年度は実施していないが、問題の作問に協力している。 5. チーム医療研修会へ教員3名が参加し、自己研鑽している。 ・産婦人科医師による裂傷縫合の演習に本学学生20名が参加し、演習を通して学んだ。</p> <p>III</p> <p>・全国助産師教育協議会への出席は、実習・演習との重複となり出席できなかったが、会報の共有や広報から学習会への参加情報を共有しそれぞれ参加した。また学生参加の研修会の情報提供を行うなどした。和歌山県母性衛生学会には専攻科生10名全員の参加と教員の参加できた。和歌山県の施設における課題や母子とその家族へのケア課題も明らかにできた。この事により教員は助産師教育の現状把握と理解及び課題を明確にできた。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議																																
<p>【計画35-12】㊦(産後ケア研究センター) 産後ケアの実際に触れ、地域における母子支援の在り方を探求し、実際のケアを提供するとともに研究的な取組を行うため、教員としての自己研鑽を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 品川区への報告書の作成。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オンラインなど）。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価。 6. 実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・FD研修及び自己研鑽状況</p>	IV	<p>1. 品川区への報告書の作成 年間報告書を作成して提出した。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画</p> <table border="1" data-bbox="534 709 1127 808"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰り型</td> <td>259</td> <td>525</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>231</td> <td>107</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>訪問型</td> <td>304</td> <td>344</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>228</td> <td>240</td> <td>773</td> </tr> <tr> <td>電話相談</td> <td>316</td> <td>639</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>376</td> <td>288</td> <td>493</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年度は大幅に日帰り型・訪問型ともに増加した。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オンラインなど） 育児クラスを3回、1・2か月、3・4か月各10名ずつ開催 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価 年度初めの従事者研修3日間、ブラッシュアップ研修5回/年を開催でき、従事者からは学習になったと評価を得られている。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価 助産学専攻科生20名、助産実習として各1週間ずつを受け入れた。 6. 実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・FD研修及び自己研鑽状況 年度開始の3日間研修、ブラッシュアップ研修5回を実施 従事者からは「学びになった、実践上の困りや問題点が解決した」等の意見が得られた。</p>	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	日帰り型	259	525	162	228	231	107	330	訪問型	304	344	127	194	228	240	773	電話相談	316	639	925	367	376	288	493	<p>【年度計画35-12】 1. 品川区への報告書の作成。 2. 電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3. 地域での育児クラス開催（対面、オンラインなど）。 4. 産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価。 6. 実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。</p> <p>「評価指標」 ・FD研修及び自己研鑽状況</p>	IV	<p>1. 品川区への報告書の作成 年間報告書を作成し、提出した。 2. 電話相談・訪問型、日帰り型への参画 2025年 日帰り型 376 訪問型 694 電話相談 330</p> <p>令和7年度は、令和6年度に比べ、日帰り型は増加し、訪問型と電話相談が減少した。 3. 地域での育児クラス開催（対面）を3回開催。 1・2か月を2回、3・4か月を1回とし、各10名ずつ募集し開催した。 4. 産後ケア研究センターにおける従事者研修会、ブラッシュアップ研修会の企画・運営・評価 従事者研修会を3日間、ブラッシュアップ研修会を3日間行った。 産後ケア利用が産後1年以内となり、必要なケアの充足と乳幼児の発達や離乳食に関して実施した。 5. 学生実習の受け入れとその運営・評価 助産学専攻科生19名の助産学実習として各1週間ずつを受け入れた。 6. 実践するケアの質および技術の向上への教育を図る。 骨盤ケア、乳幼児の発達や離乳食なども含めた研修会を実施。</p> <p>「評価の指標」 従事者からは、実践上の困りごとや問題点が解決されたことや、学びが深まったなどの意見が聞かれた。</p>		
年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																
日帰り型	259	525	162	228	231	107	330																																
訪問型	304	344	127	194	228	240	773																																
電話相談	316	639	925	367	376	288	493																																

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画36】（研究協力部） 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。</p> <p>「計画達成のための方策」 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。</p> <p>「評価指標」 ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数</p> <p>【計画37】（総務人事部） 教員の教育研究活動等の実績・成果について、教員個々の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目について、学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体等が開催するFD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。</p>	III	<p>・紀要第19巻の作成については、前年度同様に小西紀要委員会委員長から、学部長等会議で督励を行ったほか、メールでの学内周知、申請締め切り日の延長等行った結果、昨年(29件)を上回る33件の応募があった。残念ながら、原稿投稿は20件にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は昨年度と同数の18件となった。</p>	<p>【年度計画36】 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。</p> <p>「評価指標」 ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数</p>	IV	<p>・紀要第20巻の作成については、小西敏郎紀要委員会委員長から松村有里子委員長への交代があったが、メールでの学内周知、院生・修了生等への教員からの声かけを依頼、更に申請締め切り日の2週間程度の延長等行った結果、昨年(33本)を上回る37本の応募があった。残念ながら、原稿投稿数は27本にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は昨年度より2本多い20本となった。また、紀要は本学ホームページで昨今は3月下旬に公開を行っているが、今回は順調に校正等進むことができ、通常より1か月早い2月24日に公開を行った。</p>		
	III	<p>1. 教員同士による授業の相互評価（ピアレビュー）は、特定の学科で導入されており、全学FD委員会を通じて他学科への導入も推奨。また、毎年的人事面談の機会には、ピアレビューに限らず、公開講座の登壇実績なども含め、教育活動全般の取り組みを「教員教育表彰」の応募に向けて記録するよう働きかけを行っている。加えて、全学FD委員会では、各学科主催のFD講演会や研修に、すべての教員が年に1回以上参加している。</p>	<p>【年度計画37】 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体等が開催するFD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。</p>	III	<p>1. 教員同士による授業の相互評価（ピアレビュー）は、一部学科で継続的に実施しており、全学FD委員会を通じて他学科への展開も推進している。</p> <p>また、学部長面談等の機会を通じて、公開講座への登壇、FD研修会・学会等への参加、大学運営への協力状況など、教育活動全般の取組状況の確認を行っている。</p> <p>加えて、全学FD委員会では、各学科主催のFD講演会・研修会への参加を促進しており、外部機関によるFD関連研修・セミナー等への参加も奨励している。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況</p> <p>2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。</p> <p>「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況</p>	IV	<p>2. 助教以上の全教員から、5月に令和5年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」「アクションプランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実績評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処遇に反映させた。令和6年度は10名が選出され、8月28日に表彰式を行った。</p>	<p>「評価指標」 ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況</p> <p>2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員 に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。</p> <p>「評価指標」 ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況</p>		<p>2. 評価結果の処遇等への反映方策として、今年度よりティーチング・ポートフォリオ（TP）を導入し、「教育活動」「研究活動」「学内外活動」における取組内容や成果、改善への姿勢等を総合的に評価した。</p> <p>そのうえで、特に優れた実践や顕著な成果が認められる教員に対して教員表彰を行うとともに、表彰受賞者のうち、特に優れた取組を行った教員に対して、教育・研究活動の更なる充実を目的として特別教育研究経費を配分した。</p>				